

# 仕合わせの和



第231号

令和3年 6. 1

(毎月1日発行)

大和言葉(やまとことば)

その二

住職 谷川寛俊

## 『おかげさま』

自分の命は自分のもののようにですが、自分で作ったものではありません。そう思ってみると、この世の全ての物は自分が作ったものではありません。私が現在存在するのは当然、両親のおかげさまです。

もし、ご先祖の誰か一人が欠けていたら今日の私は存在しません。このように考えて見ると、現在の私は選ばれて生まれて来たのではないのでしょうか。そしてその人にか出来ない尊い使命を持って生まれて来たのではないかと思えます。

昔は食糧を採ることだって当たり前ではなかったのです。木の実を始め、動物・魚を育てたのは一体誰なのでしょう。

太陽の光や水、微生物、そして虫たちの見えない活動があり、更に空気を作り出してくれる植物など全てが自然に育っているからこそ、私たちの今日があります。

又、「おかげさま」には、お陰様で助かりました。有難う御座います。感謝致します。と言う意味が含まれていません。目の前の人だけに感謝しているのではなく、あらゆる見えないものや現象、全ての物に「おかげさま」という感謝の気持ちを向けているのです。

もともとお陰(かげ)さまは、陰(いん)ではなく、日や月の光を意識した言葉だったようです。

ですから大自然や目に見えないものに対しては畏敬(いけい)の念を持っていました。

「おかげさま」は何も特定の宗教を持たずとも、八百万(やおよろず)の神々とひとつの命を生きている日本人の深い信仰心を表す言葉なのではないでしょうか。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。



(次号につづく)

ひと  
独りで花さくのではない  
茎があり根があり土がある